

《担当者名》 大須田祐亮 osuda@hoku-iryo-u.ac.jp 依田泰知 小林健史 鈴木英樹 小島 悟

【概要】

誕生から死までの全生涯を通して、人間がどのようにして発達していくのか、またどのような要因が発達に影響するのかについて学ぶ。人間発達を理解する上で重要となる理論背景について学習し、また人間の発達を、胎児期から乳幼児期、成人期といったライフステージからの視点、形態・機能的側面からの視点、さらには認知的および情緒・社会的側面からの視点をもとに学習し、人間の発達に対する総合的な理解を深める。

【学修目標】

【一般目標】

人間がどのように発達するのか、どのような要因が発達に影響するのかを説明できる。
老年期を生きる人を認識するために、基本的な知識を理解することができる。

【行動目標】

1. 人間発達学の対象領域について説明できる。
2. 各期の発達について説明できる。
3. 各機能の発達について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション・概論	人間発達学の概要について学ぶ。	大須田祐亮
2	脳・神経系、内部機能の発達	脳・神経系、内部機能の発達に伴う変化を理解する。	大須田祐亮
3	胎児期・新生児期の発達	胎児期から新生児期の正常発達について理解する。	大須田祐亮
4	姿勢反射・反応 運動発達(0～9ヶ月)	姿勢反射・反応について学び、その意義について理解する。 0～9ヶ月までの運動発達について理解する。	大須田祐亮
5	運動発達(10～18ヶ月) 乳児期～青年期の発達	10～18ヶ月までの運動発達について理解する。 乳児期から青年期にかけての身体的、運動的発達を理解する。	大須田祐亮
6	上肢機能の発達	上肢機能の役割と発達について理解する。	依田泰知
7	ADLの発達	ADLの発達について理解する。	依田泰知
8	発達理論と発達検査	発達理論の基本的概念と、各発達段階の課題を学ぶ。	依田泰知
9	幼児期・学童期の発達	認知的機能の発達を理解する。	依田泰知
10	青年期・成人期の発達	心理的变化と社会的機能の発達について理解する。	依田泰知
11	摂食・嚥下機能の発達	摂食・嚥下機能の発達について理解する。	小林健史
12	言語機能の発達	言語機能の発達について理解する。	小林健史
13	老年期の精神機能・社会的機能の発達	老年期の精神機能・社会的機能の変化について理解する。	鈴木英樹
14	老年期の精神機能・社会的機能の発達	老年期の精神機能・社会的機能の変化について理解する。	鈴木英樹
15	老年期の身体機能の発達	老年期の身体機能の変化について理解する。	小島 悟

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

試験に関するフィードバックの方法

- ・定期試験および追再試験実施後、問合わせがあった際には自身の解答を開示する。

【教科書】

特に指定しない。授業で適宜資料を配布する。

【参考書】

大内耐義 編 「老年学 第4版（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野）」 医学書院 2014年
上杉雅之 監修 「イラストでわかる人間発達学」 医歯薬出版 2015年
細田多穂 監修 「人間発達学テキスト」 南江堂 2014年
大城昌平 編 「リハビリテーションのための人間発達学」 メディカルプレス 2015年

【備考】

必要に応じて教材動画をクラウドを通じて共有することがあるため、講義参加時にICT機器の準備が必要な場合は事前に周知する。

【学修の準備】

毎回の講義前に、講義内容について参考書等であらかじめ予習しておくこと（80分）。
復習は、プリント、講義メモなどを活用して学習を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

大須田祐亮、鈴木英樹、小島 悟（理学療法士）、依田泰知（作業療法士）、小林健史（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、福祉機関等での臨床経験を活かした教育を行う。